

# 令和7年度 第1回 大府市文化財保護審議会会議録

日 時：令和7年7月5日（土）

午前9時30分～午前11時

場 所：歴史民俗資料館 会議室1

[出席者]（委 員）伊藤啓信会長、西尾一副会長、館内三郎、花井しおり、小早川道子、池田ちか、武部真木、小野幸恵

（事務局）細谷課長、白濱館長、古田館長補佐、鷹羽、塚野、水谷、内藤

[欠席者]（委 員）見田隆鑑、中井良岳

[傍聴者] 0名

## 1. 開 会

## 2. 委員、事務局自己紹介

## 3. 議題

### (1) 令和6年度事業実績報告

歴史民俗資料館事業実績

文化財保護事業実績

入館者数

事務局）一括説明、委員意見なし。

### (2) 令和7年度事業計画

歴史民俗資料館事業計画

文化財保護事業計画

大府市文化財保護審議会活動予定

知多地方文化財保護委員会について

事務局）一括説明。

委員）3年後に知多地方の当番市となる。研究発表の一つに、石造物調査報告をテーマとしたい。現在、現地調査を行っているが、石造物調査報告書の発刊に向け写真撮影に委員の協力をお願いしたい。

委員）映像資料のデジタル化にあたっては、デジタル化後も原資料を処分せずに保存しておいてほしい。

### (3) 庚申講について

事務局）概要説明。朝日町において現在も行われている庚申講について、聞き取り調査を2回行ない、お軸などの道具を確認してきた。次回は来年2月に初庚申として行われるため、専唱院に伺い映像撮影などを行いたい。

委員）庚申講は、本来は60日の1度の庚申の日に行うものだが、現在は年に1度のみとなっているようだ。

委員）朝日町の庚申講は江戸時代後期に盛んに行われたスタンダードな形の講である。

広い信仰圏を持つ豊田の金谷庚申が尾張の大府にまで及んでいることが分かる貴重な証言である。

庚申講の石造物は残っているか。大府市内の他の地域でもまだ行われているのか。また、調査の目的は、文化財指定のためか、市史編さんのためか。

委員) 大府市では広く庚申講が行われており、近世の年号の入った庚申塔が市内各地に残っている。他地区の庚申講が現在も行われているかは未調査のため不明である。

調査の目的は、失われつつある庚申講を記録しておくことである。講が廃止され行事が途絶えるときには、お軸などの道具を歴史民俗資料館で保存すべきである。

委員) 大府市内の他の地区の状況も調査記録していくとよい。現在調査中の石造物調査と合わせていくと、大府市全体の庚申講の姿が分かるものとなる。

#### (4) 大府市石造物調査について

委員) 調査概況報告。全体の件数は、新規を含め750件程度になる見込み。行方不明は全体の1割で、破損や開発等のほか世話人不在によるものが多い。7年度は所在不明石造物の追跡調査、8年度に台帳等作成を行い、9年度に報告書原稿作成、10年度刊行を目指す。

委員) 報告書はどのようなものとなるか。

委員) 写真を多くしてほしい。石仏などは、写真がないと後に確認することが困難になる。現在行っている所在確認調査でも、写真がないために確認できないことが多くある。

委員) 地域別か種別か。

委員) 町名変更で新町名に細分化されているため、地域別にするとかえって分かりにくくなるかもしれない。地域ごとに分布に差がある。分布図は必要かもしれない。

委員) 所在地を明らかにすると盗難の心配も出てくるため、掲載方法には注意したい。

#### (5) 市指定文化財候補について

##### ■吉川熊野神社旧拝殿、半月七社神社

事務局) 専門家による調査を行う。調査日程をお知らせするので、希望の委員には調査をご覧いただきたい。3月の会議にて所見を議題にあげる予定である。

##### ■三山道中記

事務局) 今年度、富山県の立山博物館の学芸員に所見執筆を依頼する。3月の会議にて委員に見ていただく。

##### ■米田の常夜燈、半月の常夜燈

事務局) 文化財指定は保留とし、今後検討する。

##### ■蔵福寺阿弥陀三尊像

事務局) 文化財指定は保留とする。

##### ■普門寺阿弥陀如来坐像

事務局) 指定について普門寺の了解をいただいた。寺でも修復を検討したいとのこと。

委員) 修復について具体的な話があるか。

事務局) 修復内容について具体的には話していないが、仏像が専門の見田委員によると、後補の漆箔を取り除くと当初の象容で後年に伝えることができるとの所見である。

#### 4. 大府市史編さんについて

事務局) 平成編の進捗状況等について概要説明。

#### 5. その他

委員) 大府の歴史パネル展「三山道中記」について。

事務局) 県外視察について。